



Title	心のふるさとに
Author(s)	南, 好子
Citation	大阪公衆衛生. 1958, 1, p. 30-30
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84796
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

声

“大阪公衆衛生”
に期待するもの
(アンケート)

心のふるさとに

南 好子

当誌に期待する第一の事は、従来余りに自分達の仕事を評価したり、又書くことに積極的でなかった保健婦に場を与えて欲しいこと。勿論、保健婦自身も当誌に接するよう努力するつもりである。保健婦が持っていた狭いわくから、裸のまま大阪の公衆衛生と云う場に出る勇氣を持ち得るように、援助して欲しい。

第二に、大阪の公衆衛生を変えてゆく力を当誌に期待する。単に「こんな研究をしました」「結構ですな」式でなくて、私達、公衆衛生従事者が本当に良い仕事をするためには、どうすれば、なにをすればよいか—こうしようではないか、と言う意慾を盛り上げ、それを当誌に反映させ、それが大きな力となって大阪の公衆衛生を発展させてゆけるように、編集者も私達も共に努力したいと思う。

第三に誌名も示す通り、大阪の特質を充分に発揮して欲しい。というのは、大阪の公衆衛生は泥くさいと言われるが、その泥くささを出して欲しいと期待するのである。淀川の流れに手をさしのべて冷気に快よくしようと思う人はいないかも知れないが、その泥くさい流れには大阪の人間470万の生命が有り、心のふるさとでもあるように。(大阪府池田保健所保健婦)